

<多様性を取り入れることで、人を幸せにできる。>

管理栄養士・修士1年 杉野（相澤）万紀

「こんな素敵なおところが実際にあるんだ！」

下河原先生のお話は、病院で働いている今の私にとって、とても魅力的でした。

どのお話しも、「ほんと、おっしゃる通り～！！」と声に出してしまうようなことばかりでした。

高齢者住宅を人間味あるものに(^\_^)

木をふんだんに使って、木の香りのたくさんする(^\_^)

そんな落ち着いた空間であるお家。素敵なお家だな～とお写真をみていて見入ってしまいました。

今日、たまたま私も、あと2日で退院する患者さんのベットサイドへ行って、食べることのお話しました。この患者さんは病院から高齢者住宅へ退院されます。

患者さんは言っていました「新しい施設にどういった人たちがいるか分からないじゃない。だからもしかしたら、また食べられなくなるかもしれないわ。」と。

自宅で2か月間食事を摂らずに、栄養失調で病院に入院してきた方で、毎日毎日私達医療スタッフが接してきて、やっと食事ができるようになった女性。家族はいるものの、ひとり暮らしであるため、自宅へは帰れず、高齢者住宅へ。

食べることを忘れるような方で、それは、人との関わりによってストレスとなり食べられなくなる部分もある方でした。

下河原先生の高齢者住宅は、私が関わったこの患者さんをもっともっと元気にしてくれて、笑顔をたくさんプレゼントしてくれるようなところ。病院から元気になって帰れる人達が、自宅でないならば、そんな場所へ帰れるのは、すごくすごく嬉しいなと思いました。

先生が一番大事にされておられるのは、“地域住民としての暮らしが実感できる場所”。それは、真に重要な部分だと私も毎日認知症による摂食障害の方々と接していて思うところでした。

下河原先生のお話は、病院で高齢者医療を日々行なっている私に、たくさんのエネルギーを下さいました。

多様性を取り入れた考え方で、下河原先生につくられる高齢者住宅が日本中に広がって行き、ひとりでも多くの認知症高齢者が幸せな楽しい気持ちで過ごせるようなそんな国であってほしいと思います。

「希望を失わずに頑張ってください」という先生最期のお言葉も、先生の真心を感じ、感謝いたします。